

令和 6 年 5 月 29 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H00611

研究課題名（和文）炭鉱・鉱山から照射する東アジア型資本主義研究と日韓台ネットワーク拠点形成

研究課題名（英文）Mining Industry Research Center of Japan, Korea and Taiwan in the Perspective of East Asian Capitalism Formation

研究代表者

中澤 秀雄（NAKAZAWA, Hideo）

上智大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：20326523

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 29,220,000 円

研究成果の概要（和文）：日韓台の鉱山は「圧縮された近代化」を反映した共通点が多く、欧州で先行する重工業国際比較研究の俎上に載せるに最適の素材と考え、この研究対象に3視点から接近した。「東アジア型資本主義」という過去十分に定義されていない対象に対し「炭鉱・鉱山」から定義を与える。形成されつつある東アジア炭鉱・鉱山遺産ネットワークに経営・労働・社会史の各側面から学術的裏付けを与える。換言すれば、文化資源としての炭鉱・鉱山の価値を明らかにするような社会科学的鉱山学Mining Studiesを展開する。炭鉱・鉱山遺産ネットワークを東アジアの越境的紐帯へと育てるべく、申請代表者を中心とした研究拠点機能を強める。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日韓台の鉱山は「圧縮された近代化」を反映した共通点が多く、重工業国際比較研究の俎上に載せるに最適のテーマだ。東アジア炭鉱・鉱山遺産ネットワークに経営・労働・社会史の各側面から学術的裏付けを与える観点から日本のみならず韓国江原道・台湾北部炭田での調査を進め、台湾では新平溪煤鉱博物館・猴トン鉱工文史館と協力関係を構築した。韓国では旧東原炭座等を訪問しアーカイビングを接点に交流を深めた。

研究成果の概要（英文）：Mines in Japan, Korea, and Taiwan have much in common, reflecting “compressed modernization,” and we believe that they are the best material for international comparative research on heavy industry, which has been much conducted in Europe. We approached this theme from three perspectives. (1) Defining “East Asian-style capitalism” from the perspective of “coal mines and mining” as it has not been well discussed in the past. (2) To provide academic support for the network of East Asian coal mine and mining heritage that is being forged from the perspectives of management, labor, and social history. In other words, we will develop social scientific mining studies that clarify the value of coal mines and mines as cultural resources. (3) Strengthen the function of the research center led by the principal investigator in order to develop the network of coal mine and mining heritage into a transboundary tie in East Asia.

研究分野：地域社会学、環境社会学

キーワード：炭鉱・鉱山

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本課題は、以下の課題からの継続を意図したものであり、前課題と基本的には同じ代表者・分担者チームによって、炭鉱・鉱山という一時忘れられていた産業に新たな光をあて、アーカイブの蓄積やその応用を促進し、現代的な研究成果を産み出そうと意図されたものである。

課題名: 東アジア産炭地の再定義: 産業収束過程の比較社会学による資源創造(26245059)  
基盤研究(A)、研究代表者中澤秀雄、2014-2018 年度  
(<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-26245059/>)。

### 2. 研究の目的

日韓台の鉱山は「圧縮された近代化」を反映した共通点が多く、欧州で先行する重工業国際比較研究の俎上に載せるに最適の素材である。この研究対象に3視点から接近する。「東アジア型資本主義」という過去十分に定義されていない対象に対し「炭鉱・鉱山」から定義を与える。

形成されつつある東アジア炭鉱・鉱山遺産ネットワークに経営・労働・社会史の各側面から学術的裏付けを与える。換言すれば、文化資源としての炭鉱・鉱山の価値を明らかにするような社会科学的鉱山学 Mining Studies を展開する。炭鉱・鉱山遺産ネットワークを東アジアの越境的紐帯へと育てるべく、申請代表者を中心とした研究拠点機能を強める。

### 3. 研究の方法

各炭田における文献調査およびインタビュー調査が軸となる。決して一般的なテーマではないため、現地の学芸員・研究者・元炭鉱マン、博物館・行政機関、炭鉱会社やその後継企業と良好な関係を構築することが鍵となる。幸い、本課題と研究チームは韓国江原道、台湾北部炭田を含め、日本・台湾・韓国の主要炭田においてこうした関係を構築することができ、まさに「ネットワークハブ」として機能することができた。台湾北部炭田においては、われわれ日本側研究チームの存在が、現地の炭鉱文化保存活動に対して、その意義の説得に役立っていることは、繰り返し台湾の地元メディアに取り上げられていることから傍証される。

こうした活動の結果、各地の(一般非公開のものも含めて)アーカイブにアクセスすることが可能になり、託された資料も多岐にわたる。以下の4.で触れる『戦後日本の出発と炭鉱労働組合』や『芦別』はこうしたアーカイブに基づく成果であるが、分析可能な文書資料等は他にも存在するので、課題終了後の2024年度以降も、順次、成果公開に努める。

### 4. 研究成果

初年度(2019年度)において、国内諸炭田および台湾北部炭田およびサハリン炭田の基礎的実地調査を実施するなど本プロジェクトは順調な滑り出しを見せた。ところが2020年3月以降に予定していた台湾・韓国での現地調査および米国での文献調査は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行に伴いキャンセルせざるを得なかった。2020-21年度も状況は改善せず、本課題の主要な柱である海外研究が実施できない状況が継続した。そのなかでも国内炭田での調査を他の科研課題とも連動しながら進めたほか、台湾産炭地との間ではリモート会議として

シンポジウムを2020年度および2021年度の2度にわたって開催した。

コロナ禍によって海外渡航がキャンセルとなった2020年3月から2022年2月までの間に、文献調査及び国内炭田調査を軸にして産出された主要な成果は、以下の(1)-(6)および(9)である。また、2022年3月以降も、それまでの蓄積も踏まえながら、(7)(8)のように継続的に成果を産出している。

(1) 樺太産炭地に関する研究成果として、分担者の平井健文が『大日本帝国期の建築物が語る近代史』に収録された論文を刊行した。また「JAFCOF 樺太研究会リサーチペーパー」をとりまとめ、早稲田大学リポジトリに登録した。

(2) 『家族社会学研究』誌における「特集 産業・地域から家族と労働をとらえなおす」(2020年)のなかで、分担者2名による論文が掲載された。この結果、家族社会学分野の研究者にも、本研究課題の意義をアピールすることができた。

(3) 北海道東北地域経済研究所が発行する雑誌『NETT』において、研究代表者が8回にわたる連載「炭鉱・鉱山と地域」を執筆した(2021年春に完結)。

(4) 夕張炭田において元炭鉱夫の日記を翻刻・解説し代表者・分担者5名(中澤秀雄・新藤慶・西城戸誠・玉野和志・大國充彦)の連名により『戦後日本の出発と炭鉱労働組合』(御茶の水書房)として2022年秋に刊行した。

(5) Waseda Rilas Journal 誌における「環境社会学と産炭地研究とのコラボレーション」特集(2022年)に協力し、分担者3名が執筆した。これにより、環境社会学分野にも本研究課題の存在をアピールし、協力者となる研究者のベースを拡大した。なお、2023年から刊行が始まった『環境社会学講座』の第2巻「地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたか」にも、代表者が石炭に関する章を寄稿している。

(6) 産炭地に関する研究成果をベースにして、分担者の木村至聖が教科書『歴史と理論からの社会学入門』を執筆した。また分担者の島西智輝は戦後史研究の成果『日本型雇用システムをつくる』(第38回沖永賞受賞)の共同編者となり、炭鉱会社における雇用慣行に関する章などを執筆した。

(7) 日本学術会議東北地区会議公開学術講演会「資源をめぐる新しい情勢および鉱山開発地域との対話」(2023年9月2日開催)において、研究代表者が「日韓台における石炭産業と地域」と題して講演した。これにより、秋田大学国際資源学部をはじめ、工学系の関連研究者との関係構築が緒に就いた。

(8) 石狩炭田の芦別市において、市立博物館「星の降る里百年記念館」の学芸員と協働しながら地域アーカイブの再発掘・分析を行い、地域史・女性運動・産業形成・樺太からの引揚・労働組合など多様な側面から本チームの代表者・分担者が分担執筆して、2023年末に『芦別：炭鉱とマチの社会史』(寿郎社)を刊行した。「社会学者が学芸員と協働するモデルを提供している」(祐成保志・東京大学准教授)等と評価されている。

(9) その他、代表者・分担者は日本社会学会、環境社会学会、家族社会学会、日仏会館シンポジウム等でさまざま報告を行っている。

2022年度末より海外渡航が可能な状況になったため、2023年度末の研究課題完結までに、韓国現地調査・文献調査を2回、米国文献調査を1回、台湾現地調査を2回実施することができた。これらの調査成果は、2024年に青弓社から刊行される『台湾炭鉱の職場史』を皮切りに、今後刊行される書籍・論文において順次報告される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 20件）

1. 著者名 Shimanishi Tomoki, Shimizu Taku, Shimazaki Naoko, Takahashi Ken, Nakajima Shigeo	4. 巻 ND
2. 論文標題 Perspective Chapter: The Japanese Coal Mining Industry Reconsidered From Mechanized Longwall Mining to Carbon Dioxide Capture and Storage	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Yongseung Yun (ed.), Recent Advances for Coal Energy in the 21st Century	6. 最初と最後の頁 ND
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5772/intechopen.111816	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島西 智輝	4. 巻 77(3)
2. 論文標題 東アジア石炭産業の合理化と日本 日台間技術移転の事例	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 立教経済学研究	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嶋崎 尚子	4. 巻 10
2. 論文標題 「尚道遠し」: 1950年代常磐炭礦における受胎調節指導とその成果	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6. 最初と最後の頁 95-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣本 由香, 笠原 良太, 嶋崎 尚子, 大倉 季久, 西城戸 誠	4. 巻 10
2. 論文標題 RILAS研究部門「知の蓄積と活用にむけた方法論的研究」第13回研究会記録 ライフコース論×環境社会学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6. 最初と最後の頁 387-407
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島西 智輝	4. 巻 76(3)
2. 論文標題 戦後日本の石炭産業における職場秩序と炭鉱災害－三井芦別炭鉱の事例－	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立教経済学研究	6. 最初と最後の頁 35-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤秀雄	4. 巻 112
2. 論文標題 連載 炭鉱・鉱山と地域 (8) 鉱山から照射する東アジア産業史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NETT	6. 最初と最後の頁 72-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中澤秀雄	4. 巻 111
2. 論文標題 連載 炭鉱・鉱山と地域 (7) 炭鉱史と労働者コミュニティ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NETT	6. 最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嶋崎尚子	4. 巻 33(2)
2. 論文標題 石炭産業のライフサイクルと炭鉱労働者家族 --労働過程の変容と女性就労--	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 194-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嶋崎尚子	4. 巻 33(2)
2. 論文標題 特集 産業・地域から家族と労働をとらえなおす 特集のねらい	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 177-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kasahara Ryota	4. 巻 33(2)
2. 論文標題 Why Did Miners' Children Become Miners?: Development of Mining Schools and Intergenerational Succession	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Kazoku syakaigaku kenkyu	6. 最初と最後の頁 204 ~ 211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4234/jjoffamilysociology.33.204	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水拓	4. 巻 8
2. 論文標題 現役炭鉱と閉山炭鉱の技術と労働を記録する：日本・ベトナム・台湾でのフィールドワークから	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 WASEDA RILAS JOURNAL	6. 最初と最後の頁 400-403
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中澤秀雄	4. 巻 108
2. 論文標題 連載 炭鉱・鉱山と地域 (4)都市基盤と炭鉱：いまま黒ダイヤが輝く釧路・赤平	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NETT	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中澤秀雄	4. 巻 109
2. 論文標題 連載 炭鉱・鉱山と地域 (5)千年の持続と東北鉱山	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NETT	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中澤秀雄	4. 巻 110
2. 論文標題 連載 炭鉱・鉱山と地域 (6)文化資源としての炭鉱・鉱山: 九州と台湾	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NETT	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中澤秀雄	4. 巻 111
2. 論文標題 連載 炭鉱・鉱山と地域 (7)炭鉱史と労働者コミュニティ: 三池が問いかけるもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NETT	6. 最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hideo Nakazawa	4. 巻 127(5・6)
2. 論文標題 The Unmaking of Japanese Working Class: Compressed Rise and Decline of Miners' Union, 1902-2004	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法学新報	6. 最初と最後の頁 21-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笠原良太	4. 巻 758
2. 論文標題 石炭産業の転換と「閉山の子どもたち」のライフコース	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 91-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笠原良太	4. 巻 32
2. 論文標題 なぜヤマの子どもは炭鉱マンになったのか 鉱業学校の展開と世代間継承	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 204-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笠原良太	4. 巻 18
2. 論文標題 尺別に生まれて：個人の体験を振り返る 村雲雅志氏による講演の記録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JAFCOF釧路研究会リサーチ・ペーパー	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嶋崎尚子	4. 巻 33
2. 論文標題 特集 産業・地域から家族と労働をとらえなおす 特集のねらい	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 194 ~ 203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4234/jjoffamilysociology.33.194	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 嶋崎尚子	4. 巻 33
2. 論文標題 I石炭産業のライフサイクルと炭鉱労働者家族 -労働過程の変容と女性就労-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 177 ~ 182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4234/jjoffamilysociology.33.177	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西城戸 誠	4. 巻 33
2. 論文標題 産炭地における中間集団としての炭鉱主婦会 北海道赤平市、芦別市を事例として-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代社会学研究	6. 最初と最後の頁 43 ~ 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7129/hokkaidoshakai.33.43	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤秀雄	4. 巻 105
2. 論文標題 連載 炭鉱・鉱山と地域 (1)なぜいま炭鉱・鉱山を問題にするのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 NETT	6. 最初と最後の頁 69-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤秀雄	4. 巻 106
2. 論文標題 連載 炭鉱・鉱山と地域 (2)常磐炭田の閉山タイミング	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 NETT	6. 最初と最後の頁 54-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤秀雄	4. 巻 107
2. 論文標題 連載 炭鉱・鉱山と地域 (3)ディアスポラ後の炭鉱廃墟: 夕張・石狩の困難	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NETT	6. 最初と最後の頁 65-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideo Nakazawa	4. 巻 126(5・6)
2. 論文標題 Miners' Diaspora and Politicized 'Heritage': After Forgotten Coal in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法学新報	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 13件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 嶋崎尚子
2. 発表標題 第4次石炭政策と常磐炭礦(株)閉山
3. 学会等名 常磐炭礦(株)閉山50年記念講演会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 嶋崎尚子
2. 発表標題 石炭産業のライフサイクルと労働者・家族・地域 ―社宅史研究会への期待―
3. 学会等名 三池炭鉱 (関連) 社宅史研究会結成集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木村至聖
2. 発表標題 遺産観光（ヘリテージ・ツーリズム）におけるリアリティ コロナ禍の経験を通して問い直す
3. 学会等名 立命館土曜講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平井健文
2. 発表標題 戦前から戦後にかけての石炭産業と人の移動：樺太および北海道の炭鉱を事例に
3. 学会等名 北海道大学メディア・コミュニケーション研究院 国際ワークショップ「引揚者と残留者：生活と言説に注目して」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中澤秀雄・嶋崎尚子
2. 発表標題 台湾・日本における炭鉱記憶保存とその歴史的含意
3. 学会等名 臺日煤礦文化國際交流研討會(台湾文化部指導・新平溪煤礦博物園區/国立雲林科技大学主催)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笠原良太
2. 発表標題 高度成長期の産業転換と青年たちの人生回顧 炭鉱閉山50年後のフォローアップ調査
3. 学会等名 日本家族社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笠原良太
2. 発表標題 石炭産業の転換と「閉山の子どもたち」のライフコース
3. 学会等名 法政大学大原社会研究所月例研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideo Nakazawa
2. 発表標題 The Unmaking of Japanese Working Class: Compressed Rise and Decline of Miners' Union, 1902-2004
3. 学会等名 ESRC/AHRC SSH International Networking Grant Workshop (New Directions in Coal Mining History and Heritage in the UK and Japan)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井健文
2. 発表標題 「ポスト戦跡観光・帰郷」期における南サハリン観光をめぐるまなざしの交錯
3. 学会等名 観光学術学会第8回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takefumi HIRAI
2. 発表標題 Cultural Heritage as Resources of Peace Tourism: The Case of Factory-sites in South Sakhalin
3. 学会等名 International Research Conference “Weaving Peace Through Heritage Tourism”, International Conference（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井健文
2. 発表標題 「地域遺産」の保存活用をめぐる地域社会の諸課題：北海道赤平市の住友赤平炭鉱跡を事例に
3. 学会等名 北海道経済学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井健文
2. 発表標題 ポーターの変動と観光対象へのまなざしの多元性：サハリンにおける樺太期の遺構を事例に
3. 学会等名 北海道大学メディア・ツーリズム研究センター主催シンポジウム「国境と観光：国境地域に学ぶ」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto Nishikido
2. 発表標題 The Activities and Accomplishments of Miners' Wives Movements in Hokkaido, Japan
3. 学会等名 ESRC/AHRC SSH International Networking Grant Workshop (New Directions in Coal Mining History and Heritage in the UK and Japan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島西智輝
2. 発表標題 非形式的な生産技術と管理技法の海外移転 日越間の炭鉱技術移転事業の事例
3. 学会等名 経営史学会第55回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoki Shimanishi
2. 発表標題 Between Nationalisation and Privatisation: Rise and Fall of Japan's coal mining industry
3. 学会等名 ESRC/AHRC SSH International Networking Grant Workshop (New Directions in Coal Mining History and Heritage in the UK and Japan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shisei Kimura
2. 発表標題 Re-interpretation of the Concept "Industrial heritage" in East Asia: an International Comparison
3. 学会等名 Heritage: Theory and Practice” Summit, Shenzhen, People's Republic of CHINA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kei Shindo
2. 発表標題 "Regional Bond" in Coalfield Community: A Case Study of Shakubetsu Colliery
3. 学会等名 ESRC/AHRC SSH International Networking Grant Workshop (New Directions in Coal Mining History and Heritage in the UK and Japan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Shimazaki
2. 発表標題 Miners' families and mobility during Japan's postwar high-growth era
3. 学会等名 ESRC/AHRC SSH International Networking Grant Workshop (New Directions in Coal Mining History and Heritage in the UK and Japan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶋崎尚子
2. 発表標題 産業での労働・経験をどのように記録し、継承するか - 石炭産業の場合
3. 学会等名 早稲田大学総合人文科学研究センター2019年度年次フォーラム
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 小島 聡、西城戸 誠、辻 英史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 フィールドから考える地域環境 [ 第2版 ]	

1. 著者名 上水流久彦、西澤泰彦、中島三千男、藤野陽平、平井健文、パイチャゼ、林 楽青、芳賀 恵、中村八重、飯高伸五、西村一之、市原猛志、永吉 守、渡邊義孝、高田 真・スヴェトラナ、辻原万規彦ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 248
3. 書名 大日本帝国期の建築物が語る近代史	

1. 著者名 平井 健介、島西 智輝、岸田 真	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 346
3. 書名 ハンドブック日本経済史	

1. 著者名 平井健介、島西智輝、岸田真	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 346
3. 書名 ハンドブック日本経済史	

1. 著者名 平井健文、木村至聖・森久聡編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 216
3. 書名 社会学で読み解く文化遺産：新しい研究の視点とフィールド	

1. 著者名 嶋崎尚子・新藤慶・木村至聖・笠原良太・畑山直子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 272
3. 書名 つながり の戦後史：尺別炭砒閉山とその後のドキュメント	

1. 著者名 Tai Wei Lim, Naoko Shimazaki, Yoshihisa Godo, Yiru Lim	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 225
3. 書名 Coal Mining Communities and Gentrification in Japan	



1. 著者名 茅野恒秀・青木聡子編著、山本信次・中澤秀雄・浜本篤史・山室敦嗣・石山徳子・西城戸誠・古屋将太・本巢芽美・丸山康司・立石裕二・寺林暁良著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 276
3. 書名 地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたのか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	玉野 和志  (TAMANO Kazushi)  (00197568)	放送大学・教養学部・教授   (32508)	
研究分担者	西城戸 誠  (NISHIKIDO Makoto)  (00333584)	早稲田大学・文学学術院・教授   (32689)	
研究分担者	笠原 良太  (KASAHARA Ryota)  (20846357)	実践女子大学・生活科学部・講師   (32618)	
研究分担者	嶋崎 尚子  (SHIMAZAKI Naoko)  (40216049)	早稲田大学・文学学術院・教授   (32689)	
研究分担者	大國 充彦  (OHKUNI Atsuhiko)  (40265046)	札幌学院大学・経済経営学部・教授   (30103)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木村 至聖 (KIMURA Shisei)  (50611224)	甲南女子大学・人間科学部・准教授  (34507)	
研究分担者	平井 健文 (HIRAI Takefumi)  (60846418)	北海道教育大学・教育学部・講師  (10102)	
研究分担者	島西 智輝 (SHIMANISHI Tomoki)  (70434206)	立教大学・経済学部・教授  (32686)	
研究分担者	新藤 慶 (SHINDO Kei)  (80455047)	群馬大学・共同教育学部・准教授  (12301)	
研究分担者	清水 拓 (SHIMIZU Taku)  (80875203)	早稲田大学・文学学術院・その他（招聘研究員）  (32689)	
研究分担者	張 龍龍 (ZHANG Longlong)  (80844141)	早稲田大学・文学学術院・その他（招聘研究員）  (32689)	
研究分担者	森久 聡 (MORIHISA Satoshi)  (20736649)	京都女子大学・現代社会学部・准教授  (34305)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------